

解説

附属高等学校

タイトル：地理総合におけるコンピテンシー育成のための授業研究—
「気候変動のミステリー」を解くアクティブラーニングを通して

授業者：沼畑 早苗 教諭

解説タイトル：

協働力と批判的思考力を育むアクティブラーニング

コンピテンシー育成開発研究所

特任助教 押尾 恵吾

本報告は、高等学校「地理総合」における単元「地球的課題と国際協力」の授業実践として、国立環境研究所が作成した「気候変動対応のミステリー」を教材に用いたアクティブラーニングを取り上げている。生徒はデング熱の流行、家庭の食卓の変化、ロンドンの洪水対策という三つの事象を題材に、20枚以上の情報カードをグループで論理的に並べ替え、ポスターにまとめて発表した。ここでは「正解は一つではない」という前提のもと、多角的な思考と協働的な探究が促された。

振り返り調査（95名）によると、最も伸びを実感したコンピテンシーは「協働力」（75件）、「批判的思考力」（46件）、「問題解決力」（40件）であり、「創造的思考力」や「他者理解力」を挙げる生徒も一定数いた。一方で、「自己統制力（自己制御力と同義）」や「内的統制感」はほとんど選ばれなかった。自由記述からは、仲間の意見の違いを受け入れて要素を整理し直した経験や、複数の資料を組み合わせる新しい視点を見出した経験が語られている。また、他班の発表を聞いて自分たちの考えを見直す活動は、省察的思考力における振り返りといえる。

この授業は、地球規模課題の複雑な関係性を実感しつつ、協働・批判・問題解決といった資質を体験的に育成できた点に意義がある。「地理総合」が必修化された背景には、持続可能な社会を担う市民の育成があるが、本実践はその目的に資するものである。今後は「コンピテンシー」という用語を生徒自身に明示し、意識的に振り返らせることでさらなる育成が期待される。